

1. 目指す学校像

建学の精神である「力の人」、そして「高い志」「豊かな感性」「他への思いやり」という3つの教育理念を踏まえ、主体的に未来を創る女性を育てる。

「自学主義」の伝統に則り、知識蓄積と知識活用を両輪に「対話的で深い学び」を軸とした、21世紀型の学力を身につける授業を展開する。

2. 中期的目標

5ヶ年計画（2016～2020）

1. 教育力の強化

2. 組織力の強化

3. 財務力の強化

上記3点を目標に改革を進める。

1. 教育力の強化

（1）生徒学力の向上

- ① 模試偏差値と大学入試結果向上を目指す。
- ② コース毎に必要とされる高い教育力・授業力を実現するため、教員研修を実施する。
- ③ 生徒の多様な希望に応じたきめ細かい進路指導を行う。
- ④ 生徒の基本的な生活習慣を確立する。

（2）学習環境の増強

- ① ICT を利用した個別の学習機会を拡大する。

（3）指導体制の充実

- ① エンロールメントマネジメントを実施し、成績等の生徒情報をビッグデータ化する。
- ② 進路分析会を実施し、模試成績による現状把握と教員間での目標共有を行う。
- ③ シラバス見直しを行い、コース・学年の資格取得や模試偏差値に目標を設定する。

2. 組織力の強化

（1）ガバナンスの強化

- ① 予算編成を複数年化する。
- （2）教職協働による組織風土の改革
- ① 入試に係るデータ分析の精度向上を目指す。
- ② 事務機能を強化し、教職協働を促進する。

（3）教育環境の整備

- ① 生徒数に対して適正な教室数を確保する。

3. 財務力の強化

（1）募集強化による予算基盤の安定

- ① 中学での入試行事参加者を増やし、実出願率の上昇を目指す。
- ② 高校での入試行事参加者を維持し、専願者数の上昇を目指す。

自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見
本校では「部署毎の年度総括」「保護者評価アンケート」「生徒授業アンケート」の3種類の資料を元に自己判断を行っている。 (1) 教育課程について 教育課程の適切な整備については、81%が肯定的な意見と高水準を維持、進路指導体制については63%が肯定的な意見と昨年比で減少した。コロナ禍での進路サポートを引き続き検討する。 (2) 学習指導について 学力向上や学習内容の定着について、59%が肯定的な意見を述べており、昨年比でほぼ横ばい。コロナ禍が続くことを想定し、オンラインでの学習指導の充実に引き続き取り組む。 (3) 進路指導について 進路指導の充実、進路情報の提供について、肯定的な意見は65%（高3では70%）であった。対面での進路説明会とオンデマンドでの配信を組み合わせ、より適切な情報提供を模索する。 (4) 生徒指導について 生活指導の充実、人権教育の充実、差別やいじめの防止に関する肯定的な意見は昨年に引き続き、80%近くを維持した。適宜校則を見直しながら、現行の指導を継続していく。 (5) 課外活動について 部活動と学習の両立は80%近くを維持したのに対して、学校行事の充実に対する肯定的な意見は55%と大幅に減少した。コロナ禍における感染症対策と学校行事の両立を模索していく。 (6) 安全管理 登下校の安全や交通マナーへの指導は肯定的な意見が80%を越えている。施設の安全性と衛生的な管理は肯定的な意見が90%を越え、感染症対策への評価だと考えられる。 (7) 情報発信 コロナ禍で授業参観やPTA行事の開催を見合わせたことから、64%と昨年比で減少した。一方で、学校からの情報発信については85%と大きく上昇した。コロナ禍での情報提供が評価されたと考えられる。 (8) その他 入学させてよかったとの意見は昨年に引き続き80%を越えた。教員間の一貫した対応について、肯定的な意見が67%へと増加した。教員同士の横の連携と部署間の情報共有を徹底し、さらなる満足度の向上を目指す。	<自己評価に対して> (1) 教育課程について ・教育力は先生方のおかげで強化されていると考えております。 ・各コースの高い教育力・授業力の実現が難関大学進学率アップにつながったように思います。 (2) 学習指導について ・コロナ禍においても、ICTを活用した迅速な対応で、学習機会の継続を図られ、私立学校のアビリティの高さを感じることができました。 (3) 進路指導について ・コロナの影響もあり、先生との直接お話しする機会が減っていることにより、進路指導において保護者に十分情報が提供されていないと受けとめられている傾向はあるかもしれません。 (4) 生徒指導について ・いじめを生まない教室づくりに関して、ソーシャルスキルトレーニングの実施は重要ですが、新入生のみではなく、継続的に実施する必要があると思います。 (5) 課外活動について ・学校行事の充実に対する肯定的な意見は大幅に減少したが、文化祭は縮小ながら、実施出来てよかった。勉強を頑張ろうというモチベーションにもつながる。 (6) 安全管理 ・教育環境の整備に関して、アルコールの設置環境が良かったと思う。学校全体の連携された体制が素晴らしい。 (7) 情報発信 ・情報発信では、classiやホームページで最新情報が更新され、情報提供の充実が評価につながったと思います。 (8) その他 ・他校より、入試説明会・相談会などのイベント回数が多く、その都度、受験生・保護者に満足してもらえるように、色々な取り組みをされていて、先生方の熱い思いが伝わります。 <保護者による学校評価について（過年度比較）> ・今回はコロナの影響もあり、「そう思う」と言い切れなかった部分がありました。総じて、学校全体で学生の教育を何とかして継続する取り組みは各所に見受けられました。

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の 重点目標	具体的な 取り組み	評価指標	自己評価	課題と改善策
1 （1）生徒学力の向上	①模試偏差値と大学入試結果向上を目指す。	①生徒一人一人の成績情報を把握し、中高6年間を見通した指導計画を策定する。	①エンロールメントマネジメント委員会による分析	①高3生の進学指導に際し、個々の生徒の進路希望を丁寧に聞き取り、模試偏差値も活用して、進路実現を図った。国公立・難関私立にも多く合格した。	①生徒・保護者との面談や大学による進路講演会等を通じて、入試形式について幅広く情報を提供する。
	②コース毎に必要とされる高い教育力・授業力を実現するため、教員研修を実施する。	②5教科は大学入学共通テストの研究、4教科はALの実践を継続。また、コロナ禍に対応するため、ICTを活用した新たな学びの手段を研究・導入する。	②教育研究委員会による授業研究実践および保護者アンケート「学習指導」項目満足度 70%	②コロナ禍へ対応するため、以下の4点を導入。保護者アンケートの満足度は昨年比で横ばいとなった。 1. classi 導入による家庭への連絡手段の強化 2. classi によるテスト・課題の配信 3. Youtube によるオンデマンドでの授業動画配信 4. Zoom によるオンラインでのリアルタイム授業	②保護者アンケート満足度の増加を継続し、目標達成を目指す。また、上半期のコロナ禍終息が見込めないことから、引き続きオンラインでの効果的な指導方法を模索する。
	③生徒の多様な希望に応じたきめ細かい進路指導を行う。	③国公立大学で広がりを見せる推薦入試・AO入試の方式を研究する。また、広がりを見せる特色入試について研究し、大学毎の傾向と対策を把握する。	③ヴェルジェコース委員会と進路指導部による報告および保護者アンケート「進路指導」項目満足度 70%	③コロナ禍に対応するため、進路説明会をオンデマンドによる動画配信で行った。保護者アンケートの満足度は65%となり、昨年度よりもやや減少した。コロナ禍により個別面談の機会が減少したことが要因として考えられる。	③進路指導への満足度の向上を目指す。また、コロナ禍に対応した「対面」「オンデマンド」「オンライン」をハイブリッドに組み合わせた進路指導を模索する。
	④生徒に考えさせ、精神的成長を促す指導を行う。	④生徒が自主的に考え行動する機会をつくる。昨年から以下の3点を課題として継続した。 1. 学校制定リュックを完成し、販売を開始する。 2. 衣替えの時期を見直す。 3. 自治会・生徒会を活性化する。 4. いじめを生まない教室づくりを進める。新入生に対してソーシャルスキルトレーニングを行う。	④生徒指導部の年間計画および保護者アンケート「生徒指導」項目満足度 80%	④以下4点を生徒指導部で実践した結果、保護者アンケート「生徒指導」項目は、昨年とほぼ同じ 77%となった。 1. コロナ禍で感染症対策に留意しながら、学校制定リュックの製作をすすめた。 2. 気候の変化に対応するため、衣替えの時期を大幅に緩和した。 3. 感染者やその家族等への差別のない社会を目指す「シトラスリボン運動」を行い、南海電鉄とコラボした。 4. コロナ禍により家庭での時間が増えたことによる影響を注視した。ソーシャルスキルトレーニングは実施しなかった。	④以下の4点を新たな課題として取り組み、保護者アンケートにおいて肯定的な意見が80%を超えるよう努力する。 1. 学校制定リュックを完成し、販売を開始する。 2. 電車やバスでのマナー指導 3. 一部校則の見直し。 4. 自治会・生徒会を活性化する。

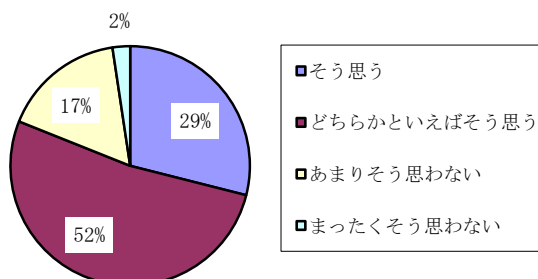
中期的 目標	今年度の 重点目標	具体的な 取り組み	評価指標	自己評価	課題と改善策
1(2)学習環境の強化	①先進的な教育活動を研究し、ICTを利用した個別の学習機会を拡大する。	①ラーニングコモンズおよびグローバルラウンジをAL実践の場として、ICT機器を活用した授業や創究講座を通じて主体的・対話的な学びを行う。	①管理職と各部長で構成する学校運営会議での議論および保護者アンケート「安全管理」項目満足度90%	①創究講座でラーニングコモンズを活用し、ALの取り組みを全校的に広げた。新たに40台ノートPCを導入し、生徒は卒業レポート等の作成に活用した。また、Classiの導入、Zoomによる授業、Youtubeでの動画配信などを行った。保護者アンケートの満足度は昨年を上回る93%となった。	①中1全員にノートPCをリースし、オンライン教育を強化。また、ICT支援員を配置して、授業ならびにコモンズエリアの利便性を高める。また、保護者アンケートの満足度維持を目指す。
1(3)指導体制の充実	①エンロールマネジメントを実施し、成績等の生徒情報をビッグデータ化する。 ②進路分析会を実施し、模試成績による現状把握と教員間での目標共有を行う。 ③コース毎に必要なとされる高い教育力・授業力を実現するため、個々の教員の指導力向上に努める。	①大学入学共通テストに対応するため、AO入試を含む各大学の問題傾向分析および蓄積を行い、より良い指導を目指して成績等の生徒情報との関連を探る。 ②模試分析会を継続し、指導を行う教員全員で現状状況を適宜把握すると同時に、指導を行う教員間で成績データを共有する。 ③ALに関する教員研修を継続し、教員研修のレベルアップ策として、思考力や記述力の求められる入試に対応可能な指導方法を模索する。	①エンロールメントマネジメント委員会と教務部による分析および保護者アンケート「教育課程」項目満足度80% ②エンロールメントマネジメント委員会と進路指導部会による分析および保護者アンケート「進路指導」項目満足度70% ③学校運営会議による検討および教務部と各教科会との協議および保護者アンケート「学習指導」項目満足度70%	①教務システムに教務部・進路指導部・生徒指導部・入試広報部のデータを随時蓄積し、定量的な分析に備えた。保護者アンケートも満足度81%となり、目標を達成した。 ②中高6年間を見越した分析を継続しつつ、データや資料を用いて情報の共有を行い、現状把握と今後の方針を確認した。高3は模試成績から志望大学を詳細に検討した。保護者アンケートは65%（高3では72%）だった。 ③コロナ禍でオンライン授業やオンデマンド授業など、教員全体のICTスキルが大きく向上した。また、ラーニングコモンズを活用して主体的・対話的な学びを実践した。保護者アンケートは60%近くとなった。	①教育効果の質的な分析として、生徒インタビューやアンケート等を蓄積する。引き続き、保護者アンケートの満足度80%以上の維持を目指す。 ②コロナ禍の中において、生徒一人ひとりの希望進路の実現に必要な対応を模索する。中高各学年に応じた対応を模索し、保護者アンケートについて肯定的な意見の割合をさらに上昇させる。 ③コロナ禍の終息が見通せない中、リモート授業による教育の質をさらに向上させる。保護者アンケートについて肯定的な意見の割合を上昇させる。
2(1)ガバナンスの強化	①クラス数および教員数に応じた組織力の強化を行う。	①中高部長による学級や学年の業務サポートを継続し、様々な状況に対応できるようきめ細かなフォローを行う。	①本部と管理職の協議	①管理職および本部ICT課の協働により、オンライン授業のためのインフラ整備を行い、コロナ禍のイレギュラーな事態に対応することができた。	①コロナ禍において、オンライン授業の補助や登校に不安を抱える生徒の対応を含めて、引き続き学年団の業務をサポートしていく。

中期的 目標	今年度の 重点目標	具体的な 取り組み	評価指標	自己評価	課題と改善策
2(2)教職協働による組織風土の改革	①データ分析の精度向上を目指す。 ②事務機能を強化し、教職協働を促進する。	①web 出願システムと連動した入試行事受付システムについて、集計・分析機能の強化を目指す。 ②業務の実状に合わせて、事務局の再編成を行う。	①入試広報部とアドミッションセンターによる協議 ②教頭・本部・事務局による協議	①web 出願システムと入試行事受付システムを独立したサーバーに分離し、集計・分析機能を強化するための下準備を行った。 ②施設改装を行い、第一課と第二課にそれぞれ部屋を当てた。	①システムによるデータの分析・集計を開始するとともに、新たな機能の実装を行う。 ②第一課と第二課にそれぞれ事務長を配置し、業務を開始する。
2(3)教育環境の整備	①生徒数に対して適正な教室数を確保する。	①教室の適切な改築や配置換えを行う。	①管理職および学校運営会議による協議および保護者アンケート「安全管理」項目満足度 90%	①新中 1 のクラス増に伴い、301 教室と 302 教室を普通教室に改装した。保護者アンケートの満足度はほぼ目標を達成することができた。	①ラーニングコモンズおよびグローバルラウンジ拡充のための工事を実施する。保護者アンケートの満足度維持を目指す。
3(1)募集強化による予算基盤の安定	①中学での入試行事参加者を増やし、実出願率の上昇を目指す。 ②高校での入試行事参加者を維持し、専願者数の上昇を目指す。	①接触者の数だけでなく、行事の質を担保することで満足度を高める。 ②中学訪問の回数と頻度を維持すると同時に、ダイレクトメールなどでの入試情報提供を行う。	①入試広報部とアドミッションセンターによる分析および保護者アンケート「その他」項目満足度 80% ②入試広報部とアドミッションセンターによる分析	①コロナ禍の影響で年度前半のイベントやブースがほぼ実施できなかった。年度後半には感染症対策を充分に行った上で、イベントやミニ説明会の回数を大幅に増やした。「この学校に入学させて良かった」と回答した保護者は 82%に至った。 ②適切な時期に適切な数の行事リーフレットを各中学に送付した。年度後半に感染症対策を充分に行った上で、例年と同じ回数の入試イベントを維持した。	①漸減する中学受験人口に対して、引き続き入学人数を確保するための施策を考える。入学満足度についてもさらなる向上を目指す。 ②進路の多様性など、本校独自の教育をアピールすることで、高校入学人数の増加を目指す。

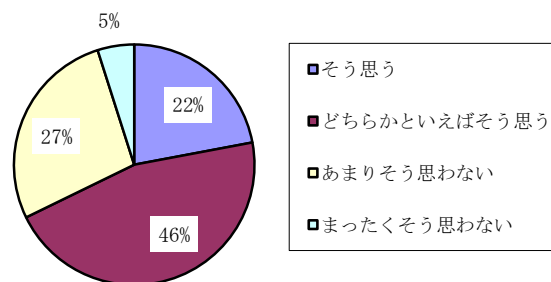
<2020年度 帝塚山学院中学校高等学校 保護者による学校評価アンケート結果>(委員＋一般)

<教育課程>

質問1 様々な進路希望に対応できるように、教育課程（選択科目など）は適切に整備されている。

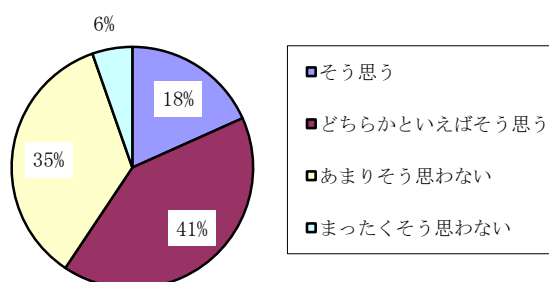


質問2 補習や講習は統合的に整備され、多様な進路希望に対応できる体制になっている。

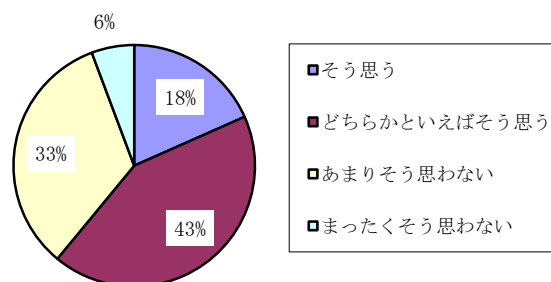


<学習指導>

質問3 学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げている。

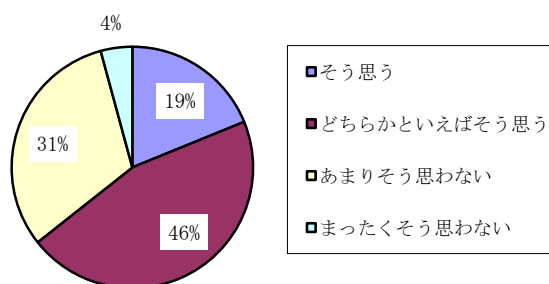


質問4 宿題や補習などを通じて、学習内容の定着を図る工夫がなされ、十分な効果を得ている。

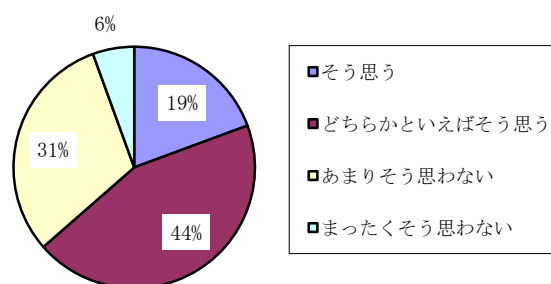


<進路指導>

質問5 進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分寄与している。

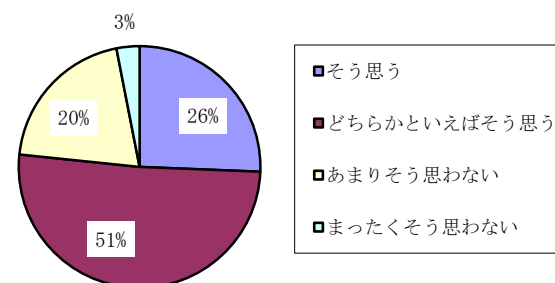


質問6 進学指導に必要な情報は、ガイダンスなどを通して保護者にも十分に提供されている。

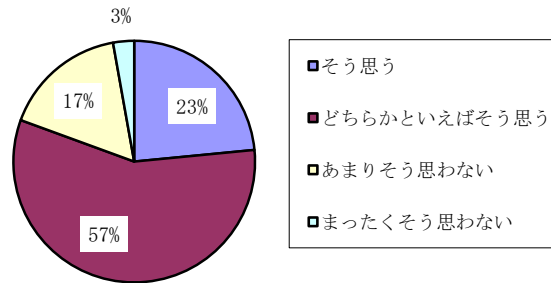


<生徒指導>

質問7 生徒指導は充実しており、規範意識と自律性の育成に十分寄与している。

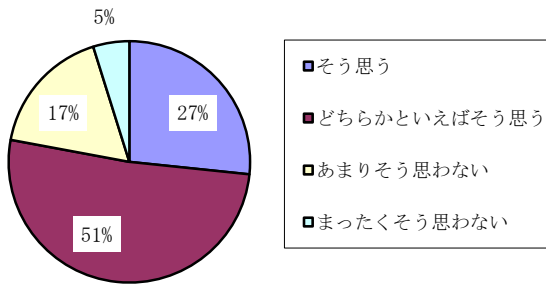


質問8 人権教育の充実がはかられ、差別やいじめの防止に十分な成果を挙げている。

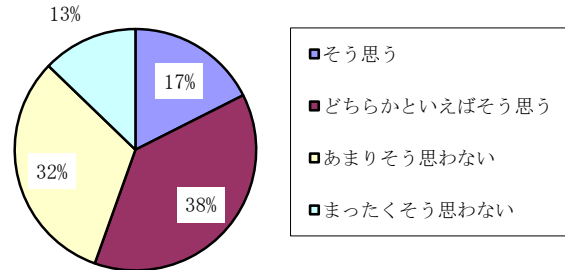


<課外活動>

質問 9 部活動は学習との両立について配慮がなされているとともに、生徒に十分な指導が行われている。

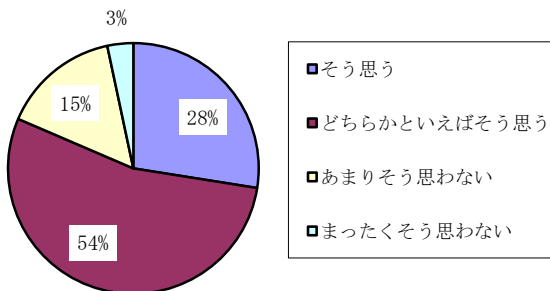


質問 10 学校行事は充実しており、生徒の自主性の育成に役立っている。

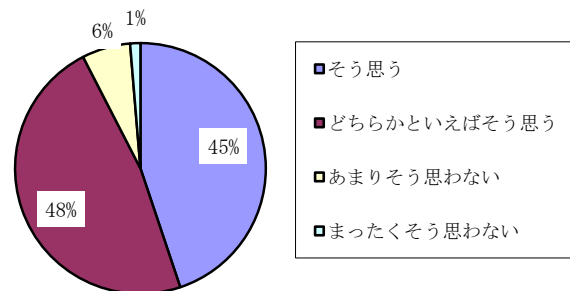


<安全管理>

質問 11 登下校の安全や交通マナーに関する指導が、十分なされている。

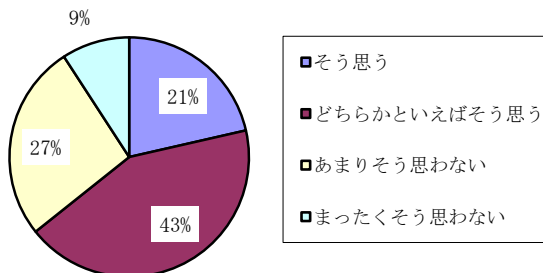


質問 12 施設・設備は安全かつ衛生的に管理・整備がなされている。

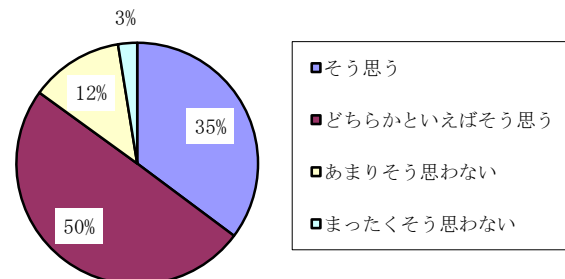


<情報発信>

質問 13 授業参観やPTA行事は適切な頻度で行われており、学校の様子をうかがい知る機会として機能している。

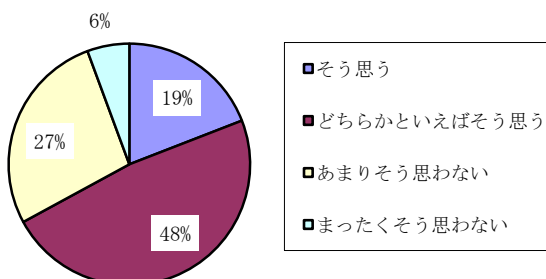


質問 14 学校からのお知らせ文書などを通じて、必要な情報を不足なく得ることができる。



<その他>

質問 15 教員はチームワークがとられており、どの教員に相談しても、一貫した対応が期待できる。



質問 16 この学校に入学させてよかった（知り合いや親戚にもこの学校を勧めたい）と思う。

